

再度、暴力行為の根絶に向けて 2

昨年度、「暴力行為の根絶に向けて」の通知をしましたが、残念ながら指導者の犯罪・暴力行為が何件か報告されています。このことは、ミニバスケットボールの普及発展にとって大きな障害になります。そこで再度「暴力行為の根絶に向けて」の通知を行い、各都道府県ミニ連盟におきましては、所属チームの指導者、関係者に徹底をお願いいたします。

暴力行為の根絶に向けて

私たちは、ミニバスケットボールの活動を通して、日本におけるミニバスケットボールの健全な普及発展を図るとともに技術の向上と、指導者の資質の向上を図ることを目的としております。とりもなおさず、子ども達の健全育成がその根幹にあります。

ミニバスケットボールの「友情、ほほえみ、フェアプレイ」の精神は子どもに対してのみ要求されるものではなく、指導者に対しても要求されるものであります。

しかしながら、大変残念なことに、ほんの一部の理解の足りない指導者の暴力行為の存在を確認いたしました。

ミニバスケットボールの活動において、指導者の子供に対する暴力行為（言葉を含む）が行われることは許されません。例え、その行為が、保護者の同意があったとか、指導者の独りよがりの指導論等で行われたとしても許されるものではありません。ましてや、勝敗やプレーの不出来による指導者の激高から行われた場合は言語道断です。勝利至上主義に偏った指導者ほど、その傾向があるとの報告も心配されるところです。

ほんの一握りの指導者の誤った指導方法や言動が、人々に不信や誤解を招くことを考えるならば、単にチームや、指導者個人の問題ではなく、健全育成を目指し努力しているミニバスケットボール界全体に対する大きな問題ととらえます。

児童の人権擁護や、褒めて育てる観点からも、暴力行為は絶対にあってはならないことです。各都道府県ミニバスケットボール連盟におかれましては、指導者の暴力行為が決して容認されるものでないことを指導者講習会や、代表者会議等の場で指導の徹底をお願いします。また、万が一、暴力行為が認められた場合は、迷わずに厳正な処置をお願いいたします。

各チームの運営におきましては、一人の指導者の独善とならないように、複数の指導者で子ども達の育成にあたる。保護者に練習の様子などを見てもらい、常に複数の目で子ども達を見守る。問題がある場合には、チーム内で話し合い、また地区や都道府県のミニ連盟に指導を仰ぐ。など環境整備を行い信頼される組織であることが大切です。お金の関係も一人で扱わず、複数で担当することが望ましいと考えます。

最後に、ミニバスケットボールの指導についての基本的な考え方を以下のようにまとめてみました。

指導者は、プレイヤーの一人一人を技術や体力面のみならず精神面や情緒面を含めて全面的に育てなければならない。子供を傷つける言動は絶対にゆるされないものである。

指導者は、参加する子供たちを公平にみてやらなくてはならない。

指導者は、チームのメンバーの一人一人が持っているよさを発掘し、それを十分に生かす義務がある。

ゲームに勝つことは、指導者にとってもプレイヤーにとっても大きな願いであるが、単に結果だけを重視するのではなく、ねらいやその練習過程を重視した指導が必要である。

指導者は、子供たちに意欲を持って学習させるためには、良いプレイをしたときに大いに称賛することである。

練習は、明瞭な目標を持って行うことと、ゲームの局面に近い練習を行うこと、そして、参加者全員が効果的かつ平等に練習できるよう工夫すること。

基礎となる考え方やスキルはミニバスケットボールでも適切に指導していかなければならない。基礎的な動き(ボディーコントロール、ボールコントロール等)や俊敏性の体得については、楽しく学ばせると将来の成長が一層促進される。

指導者は、子供のコート上のケガの防止に万全を期するだけでなく、情緒的、精神的な安定の配慮や日常の生活態度についても配慮しなければならない

指導者は、子供に友情、ほほえみ、フェアプレイの精神をしっかりと学ばせさせなければならない。

ミニバスケットボールを通じて、子ども達をしっかりと育てていきましょう。



平成18年1月12日

日本ミニバスケットボール連盟